

令和6年 11月 1日 (金)

あさひの日だまり

NO.23

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～楽しい音楽会でした～

保護者の皆様ご来校ありがとうございました

お便りが久しぶりになってしまいました。先週は月曜日が1日会議。水曜日・木曜日・金曜日が徳島県へ出張で時間に追われてしまいお便りを作る心の余裕ができませんでした。心の置き所が学校ではないところにある自分だったように思われ心が痛いです。

徳島への出張は電車での移動でした。長時間の車中でしたが時折ふっと火曜日の音楽会のことを思い出していました。ステージに立つ子どもたちの姿であったり、フロアで一生懸命に演奏に聞き入る真剣な子どもたちの姿であったり、子どもたちと一生懸命に音楽を作って下さっている先生方の後ろ姿であったりしました。心に浮かんだ一幕はこんな場面でした。

音楽会が終わり廊下をニコニコ顔で帰って来るクラスに出会いました。「どうだった、音楽会たのしかった?」「うん、たのしかった」「めっちゃ楽しかった」どの子の足取りも跳ねるように軽やかでした。心の中の嬉しさがその姿にあふれ出ていました。

来賓の方を玄関でお送りするとき「校長先生、どの子どもたちもステージの上で本当に楽しそうに歌っていましたね、それが本当に素晴らしいと思いました」とお話ししてくださいました。そして「子どもたちからすごいエネルギーをもらって帰れます。今日は本当にありがとうございました」とお話を下さった方もいました。

私は、子どもたちの歌を純粋に楽しめる澄んだ心持ちに心を動かされていましたので「本当にそう思います。ありがとうございます」とお返事しました。そしてそれと同時に、そういう素敵な子どもたちの姿を引き出して下さった音楽の先生と担任の先生方のすごさに思わず頭が下がる思いでした。

また、電車の中でこんなことも思い出しました。

真剣に一生懸命に指揮を見ながら歌っている一人ひとりの子どもたちの表情に目がいったとき、ふとこんな思いが心の中に浮かびました。「あっ、あの子は確か友だちとの関係に悩んで先生に苦しい心の内をこぼしていた子だったな」「あの子は先週泣きながら悲しい思いをした出来事をお話ししてくれた子だったな」「あの子は、家に帰ると自分で夕

食の準備をして家族を支えている子だったな」そういう色々な背景を持って生活している子どもたちが、今ステージの上で友だちと音をそろえて大きな口をあけて一生懸命に歌っているのです。その姿を見つめていると思わず目頭が熱くなってきました。「子どもたちはすごいな～」と思わずにはいられま



せんでした。

子どもたちはいろいろなドラマを作りながら音楽会を終えました。子どもたちの頑張りに体育館の後ろから心の中で声援を送って下さったご家族の皆様、本当にありがとうございました。ご来校いただいたご家族の皆様を前に、「ほら私を見て！」と誇らしく子どもたちはステージに立てたことと思います。心より感謝いたします。

～マラソン週間が始まりました～

頑張れ子どもたち



31日の木曜日にマラソン集会在グラウンドで行われました。これを皮切りにいよいよマラソン旬間が始まります。そして、11月13日(水)はマラソン大会本番です。

31日のマラソン集会では全校が一緒に準備体操をして、全校が一斉にトラックを走りました。最初から全力で走り出し、途中で「苦しくなっちゃった！」と話しながら歩きだしてしまう1年生がいました。1年生にとっては初めての長距離です。

「よ～し」と張り切って飛び出していきま

した。途中で苦しくなってしまうかもしれませんが教室へ帰って子どもたちと「今度は最初は少しゆっくり走り始めて、最後までずっと走り続けられたらいいね」とお話をしました。「よし次は頑張るぞ」っていう表情の子どもたちの姿が頼もしく感じられました。中には「校長先生ぼく〇〇周も走れたよ！」と誇らしげに教えてくれる子もいました。「すごいじゃん」とほめると、嬉しそうに笑顔を返してくれました。

私はいつも思います。このマラソン大会は、「楽しみだな」と思う子と「嫌だな」って思う子に分かれる大会だと。あるクラスの担任の先生が「子どもたちにマラソン大会が嫌だと思わないですむ方法を聞いたんです。そうしたら子どもたちが自分たちで一回走ってみて目標タイムを設定し、当日はそれに挑戦するようにすればいいと思うと言ってくれたんです。そのために試走をさせてあげたいのですがいいでしょうか？」とお話ししてくれました。私は本当にありがたいなと思いました。子どもたちにとってマラソン大会が「自分の目標への挑戦」というそんな楽しみな出来事になって欲しいと思います。「頑張れ子どもたち!!」心から応援しています。

～すばらしい贈り物をいただきました～

地域の皆様に感謝です

下の写真を見て下さい。ナナント、なかなか目にするのでできない、ダンボール入りの大量なマツタケです。実はこのマツタケ、地域の方からの頂き物なのです。「校長先生、30分くらい時間あるかや？」と電話がかかってき



ました。「ハイ」と返事をし、お宅を訪ねると「出荷できない物を持っていってもらえるかい？」というお話しなのです。あまりに突然のことで言葉を失いました。そして、大きな声で「本当にありがとうございます。いただきます」とお返事をしました。そして本当にたくさんのマツタケをいただいて帰りました。

先生方に手分けをして切り分けていただいて今冷凍庫に眠っています。「各クラスで計画を立てていただいて、有効に使ってください」と先生方にお話ししています。お世話になっている方との食事会でもいいですし、保護者の皆様と一緒に食べていただいてもいいと思いますし、方法はクラスに任せたいと思います。

私は「このマツタケは学校へあげよう」という思いになって下さる地域の方がいることに本当に感謝の思いでいっぱいです。